佐澤山薬師堂 60年に一度の大祭

薬師如来像

佐澤山薬師堂

川根本町久野脇地区にある佐澤山薬師堂では、2020年1月4日(土)・5日(日)に、60年に一度の大祭が行われます。

佐澤山薬師堂は、南北朝時代(1333年～1392年)に勧請(かんじょう)され、1574年には武田家によって焼き討ちされた記録も残っています。

毎年の正月には、御本尊の薬師如来像が納められているお堂を御開帳する例祭が行われ、60年に一度の庚子(かのえね)の年には、御本尊がお堂から出て地区内を渡御(とぎょ)(神輿の練り歩き)する大祭が行われてきました。

この大祭は、焼き討ち後の再建(1604年)以降としては1660年に初めて行われ、その伝統は現在まで引き継がれています。

60年前の大祭の様子

60年前の大祭の様子を詳しく覚えている人はほとんどいないため、お堂に保管されていた文献や写真のほか、風習に詳しい地区内外の方々のお話を参考に、手探りで準備を進めてきました。

見どころはなんといっても、60年ぶりの御本尊の渡御。地区在住・出身者で年齢が60歳の6人が、大八車に乗せた神輿を引き回します。前回の渡御の際にどのようなお囃子や掛け声であったのかは全く分かっていませんが、皆で相談して、ふさわしいものにしたいと考えています。

たくさんの人の記憶に残る大祭となれば、きっと次の60年後にもつながっていくと思います。ぜひ、多くの皆さんに見に来ていただければうれしいです。

佐澤山薬師大祭実行委員会
諸田 光夫 委員長

【開催概要】
<宵祭>令和2年1月4日(土)午後6時～9時
読経・御祈祷、当番組による接待、大抽選会
<大祭>令和2年1月5日(日)午前8時～午後3時
御本尊「薬師如来像」の渡御
(午前9時にお堂を出発し、三津間地区・久野脇地区の集落内を巡回)

【場所】
佐澤山薬師堂(川根本町久野脇地内)
※駐車場は三津間集会所をご利用ください。

【問】佐澤山薬師堂大祭実行委員会(0547-56-0860)

いかわねの人々 Vol.13 伊久美 正章さん 緑さん(川根)

川根本町の北部に位置する大沢地区。藤枝市から移住してきた伊久美さん夫妻は、築150年の古民家を改装し、2019年3月に「川根ライダーハウスやおき」を開業しました。

「やおき」は、バイク愛好家(ライダー)向けのゲストハウスです。隣接する茶工場をガレージとして改装するなど、バイクを愛するご夫妻ならではのおもてなしが特長です。

「立派な古民家と静かな環境に惹かれ、この場所を選びました。

実際に住み始めると、集落の皆さんが野菜を分けてくれたり、温かく迎え入れてくれたりして…。ここに移住してきて本当に良かったなぁと実感しています」と、緑さんは笑顔で話します。

開業してからまだ半年ですが、すでに全国各地から多くのライダーが訪れ、「いかわねツーリング」の拠点となっています。

「いかわねの山道は走りがいがあって、道沿いからたくさんの絶景が見られるのも魅力。疲れを癒してくれる温泉が点在しているのも、お客さんからは好評ですね」と、正章さんは教えてくれました。

「これからもたくさんのライダーを迎え入れ、いかわねの魅力を伝えていきたい」と語る伊久美さん夫妻。「いかわね地域をバイクで巡る『スタンプラリー』のようなイベントも企画できれば」と、さらなるおもてなしも思案中です。

いかわねに伝わる神楽を披露しました！

川井神楽保存会 八王子の舞

川根本町徳山古典芸能保存会 五躰籠の舞

井川神楽保存会 金丸の舞

梅ヶ島新田神楽保存会 宇須女の舞

大神楽祭2019

令和元年10月5日(土)、静岡浅間神社で催行された大神楽祭2019には、静岡市内から井川神楽保存会・清澤神楽保存会・梅ヶ島新田神楽保存会、川根本町から川根本町徳山古典芸能保存会・梅津神楽保存会、島田市から笹間神楽保存会が出演しました。

今年度の大神楽祭の特徴は、年齢や国籍、性別を越えた新たな神楽の担い手に堂々とした舞を披露してもらったことや、新しい試みとして、静岡県舞台芸術センター(SPAC)と神楽保存会の共演が実現したことです。

来場者は2000人を数え、大勢の観客の前で舞台を披露する良い機会になりました。

オクシズ縁劇祭2019

大神楽祭と同時開催したオクシズ縁劇祭では、世界から高い評価を受けている静岡県舞台芸術センター(SPAC)とコラボして、オクシズの民話を題材にしたお芝居を5本上演しました。

そのうちの1つが井川に伝わる昔話「てしゃまんくと浅間さんの石鳥居」。三十人力ともいわれる「てしゃまんく」が、知恵と力で静岡浅間神社の石鳥居を軽々と立ててしまったという物語です。芝居を盛り上げる演奏にも井川神楽の音曲が使われ、詰めかけた多くの観客を魅了しました。

SPACによる「てしゃまんくと浅間さんの石鳥居」の上演

「井川ダム祭」・「井川神社秋祭」 南アルプスユネスコエコパーク登録5周年記念「井川味わい祭」

秋深まる11月3日(日)、井川で毎年恒例の「井川ダム祭」・「井川神社秋祭」が開催されました。

井川ダム祭・井川神社秋祭が行われている井川神社は、昭和33年の井川五郎ダム建設に伴い、5社が1つの神社にまとめられ、設立されました。お祭では、自然の恵みに感謝を捧げる伝統芸能「井川神楽」の奉納をはじめ、住民がお神輿を担いで地域を練り歩くなど、井川の伝統や文化を垣間見ることができました。

さらに今年は南アルプスユネスコエコパーク登録5周年という節目を記念して、井川にしかない在来作物や雑穀など「食」をテーマとした「井川味わい祭」が、井川ビジターセンターで初開催されました。

お祭の目玉は、井川の山・川の幸をふんだんに使ったお弁当の販売と、静岡農業高等学校の生徒及び東海大学短期大学部食物栄養学科の学生が考案した井川のお土産レシピのコンテストです。

お弁当は全3種類、限定110食ということもあり開始1時間で完売。中身はどれも豪華で、井川で育ったアマゴや駿河軍鶏のほか山菜やしいたけの天ぷら、煮物など様々な料理で彩られ、味はもちろん見た目でも来場者を喜ばせていました。

お土産レシピコンテストでは、静岡農業高等学校の生徒が考案した「落花生のマカロン」が1位を獲得し、地元の方々も商品化を熱望するクオリティの高さでした。その他、タルト風落花生クッキー、サクッとチョコピーナッツボール、ほもろこしカップケーキなど、在来作物の特徴と風味を生かしつつ、若者の発想で工夫を凝らしたお土産レシピが発表され、試食した方々は、その出来栄えにどれも、甲乙つけがたいと、投票先を悩んでいるようでした。今後、井川の新名物になることが期待されます。

そのほか、ネイチャークラフトやつる細工、「井川メンパ」の製作実演、南アルプスの風景写真や特種東海製紙株式会社が製造を始めるウイスキー工場の紹介、南アルプスの生きもの缶バッジ作り、子どもに大人気の射的コーナーなどが会場を盛り上げました。

お土産レシピコンテスト参加者の皆様

井川神楽の奉納

お神輿渡し

当日限定のお弁当

大井川鐵道井川線が60周年を迎えました

いかわとかわねを結ぶ大井川鐵道井川線(南アルプスあぷとライン)が、営業開始60周年を迎えました。1959年に営業運転を開始した井川線は、沿線住民の生活の足として、「エンジン」の愛称で親しまれてきました。近年では主に観光鉄道として活躍し、世界に誇る日本の観光資源として奥大井湖上駅が「クールジャパンアワード2019」に選出されるなど、国内外から注目を集めています。現在、井川線では60周年を記念して、特別往復乗車券(千頭駅～奥大井湖上駅)を千頭駅にて販売しています。